

# 3年■組 総合的な学習の時間学習指導案

授業者：●●●●

## 1 取り上げる人権課題 「障がいのある人」

## 2 取り上げた人権課題の背景と現状

障害者基本法や障害者差別解消法により、障がいのある人に対する偏見や差別はあってはならず、合理的配慮が求められている。このような法整備が進む一方で、障がいのある人に対する潜在的な偏見や差別は無くなっていない。例えば、視覚障がいのある人に対しては、就労やアパート等への入居の際に拒まれたり、障がいがあるからという理由で育児ができないと決め付けられたりしている。こうした偏見や差別は、「障がいのある人は何もできない。」「障がいのある人はかわいそう。」といった決め付けた見方によるものであると考えられる。障がいのある人の人権を守るためには、このような潜在的な偏見や差別を無くしていくことが大切であると考えます。

## 3 児童の実態

障がいのある人に対する差別を生み出す上記のような意識を視点として、児童の日常の様子を観察したところ、「〇〇さんは～が苦手でかわいそうだから、手伝いたい。」などと、仲間に対して決め付けた見方をしていることが分かった。そこで、障がいのある人について、どのような意識をもっているのか、実態を把握するためにアンケート調査を行った。

### 【アンケート調査等からみた本学級の実態】

| 〈分析の観点〉                          | 概ね思う |
|----------------------------------|------|
| 障がいのある人は、できないことがたくさんありそう。        | 約60% |
| 障がいのある人は、できないことがたくさんありそうで、かわいそう。 | 約80% |

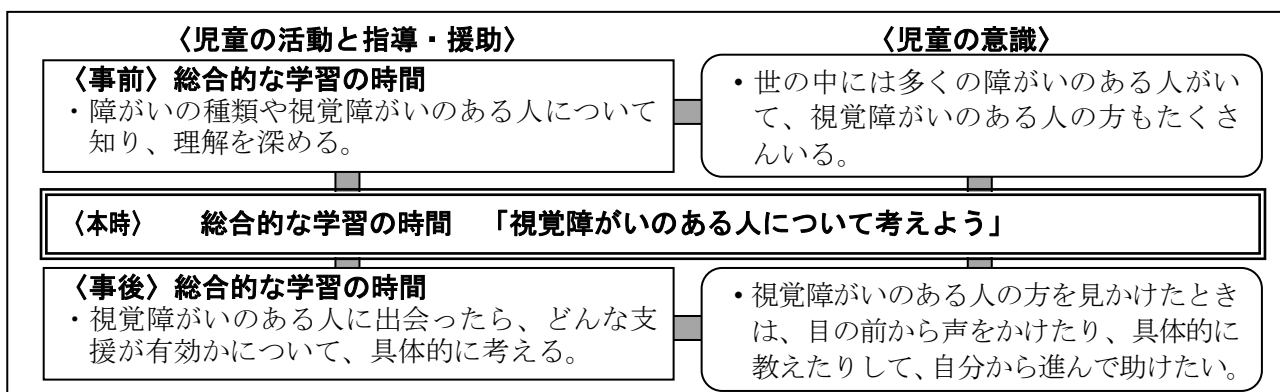
アンケート結果から、障がいのある人に対して「できないことがありそうで、かわいそう。」と考える児童が多いことが分かった。その要因として、「障がいがあるからできない。」「障がいがあるから自分たちより幸せにさせない。」など、健常者の自分たちよりもできないことが多く、健常者より幸せではないと決め付けた差別的な見方があるからだと考えた。

そこで、本時では、障がいがあるからといってかわいそうと決め付けている見方が自分自身にもあることに気付けるようにしたい。また、差別的な見方をせず、障がいのある人も健常者と同様に、苦手なことは助け合い、できることは認め合っていこうとする態度を育みたい。

## 4 指導改善の手立て

- ・「確かにする場」では、学習活動3で視覚障がいのある人の不便さを知って感想を交流した後、実際に全盲の方が「なぜ『かわいそう』と思ったのか。」と問い、思いを語ってもらうことで、「かわいそう」と決め付けた見方が自分にもあることに気づき、差別を無くするにはどうすればよいのか、考えることができるようにする。
- ・「学習成立を見届ける場」では、学習活動4の中で具体的な実践策をもった後に全盲の方の話を聞くことで、実践する意欲を高めることができるようにする。

## 5 事前・本時・事後の指導構想



## 6 本時の目標

視覚障がいのある人に対する差別や生活について考えることを通して、「できない」「かわいそう」という決め付けた見方が自分にもあることに気づき、差別を無くしていくための実践策をもつことができる。

## 7 本時の展開

| 過程                                   | 主な学習活動  | 見届ける視点(◇)と指導・援助   |
|--------------------------------------|---|---|
| つかむ<br>7分<br>見<br>い<br>だ<br>す<br>10分 | <p>1 第1資料を見て、課題をつかむ。</p> <p>(盲目のピアニスト 辻井伸行さんが演奏する映像を観た後)<br/>2009年、辻井さんがアメリカで国際ピアノコンクールに出場し、審査の結果、辻井さんは第1位に選ばれた。<br/>しかし、アメリカのある新聞には、「ひどい演奏だった。」「指揮者を見ることができないなら、演奏するべきではない。」と書かれていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に目が見えない中で頑張って演奏したのに、ひどい。</li> <li>・いい演奏なのに、盲目だからひどいと言うとか、演奏するべきではないと思うのはかわいそう。こんな差別は許せない。</li> </ul> <p>視覚障がいのある人への差別を無くすには、どうしたらいいのか。</p> <p>2 辻井さんを差別した理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盲目の人は、ピアノなんて弾けるわけないと思っているから。</li> <li>・目が見える人の方が上手だと決め付けているから。</li> <li>・「盲目の人だから」と特別に考えているから。</li> <li>・指揮者が見えていないのに合わせられるわけないと思っているから。</li> </ul> <p>盲目の人は私たちよりできないと決め付けている。</p> <p><b>【確かにする場】</b></p>  | <p>◇問題をとらえ、課題意識をもっているか。(つぶやき・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どうしてそう思ったの。」と問い返し、視覚障がいのある人を差別する言動に気付くことができるようにする。</li> <li>・課題意識をもつことができるように、「このような差別をみんなはどうしていきたいの。」と問いかける。</li> </ul> <p>◇差別した理由に気付いているか。(つぶやき・発言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ交流を位置付け、多様な意見を基に考えられるようにする。</li> <li>・「どんな気持ちが差別を生んだのかな。」と問いかける。</li> </ul> |
| 確かにする<br>18分                         | <p>3 第2資料(視覚障がいのある人の生活や思い)から、視覚障がいのある人への自分の見方を考える。</p> <p>&lt;視覚障がいのある人が不便としていること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近くに何があるか分からず、人や自転車とぶつかる。ホームから転落する人も。</li> <li>・一人で買い物をしたり、飲食店でメニューを読んだりすることができない。</li> <li>・色が分からないから、どんな景色なのか分からない。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できないことがたくさんあるのは、辛そうだ。</li> <li>・私たちが当たり前に行っていることができない。かわいそう。</li> </ul> <p>&lt;視覚障がいのある人の思い&gt;※全盲の方のお話を聞く。<br/>目が見えないから不便なことは確かにあるが、バスや電車に乗って一人で仕事に行ったり、旅行をしたり、時計を読んだり、スマートフォンを操作したりして、幸せに生活できている。それなのに、なぜ「かわいそう」と思うのかな。頑張っているのに、そう言われることが一番辛い。みんなにも苦手があるように、私にも苦手があるだけ。お互いに助け合っていけば、決して「かわいそう」ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目が見えないから「かわいそう」「僕たちよりできない」と決め付けていた。その見方が視覚障がいのある人を苦しめていた。</li> <li>・視覚障がいのある人の人にもできることはたくさんある。だから、苦手なことを助け合っていけば、みんなが幸せになれる。</li> </ul> <p>視覚障がいのある人も私たちも同じように、苦手なことは助け合って、できることは認め合う。「かわいそう」という見方をしない。</p> | <p><b>【人権教育の観点】</b><br/>視覚障がいのある人に対する決め付けた見方があることに気づき、その人のことを正しく理解して、みんなと同じように接しようという態度を育む。(行動力)</p> <p><b>&lt;そのための手立て&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動3の中で全盲の方が「なぜ『かわいそう』と思うのか。」と問い、語りかけることで、自分にも決め付けた見方があることに気づき、差別を無くすためにはどうすればよいか、考えることができるようにする。</li> <li>・学習活動4で具体的な実践策をもった後、視覚障がいのある人の話を聞くことで、実践する意欲を高めることができるようにする。</li> </ul>   |
| できる<br>10分                           | <p><b>【学習成立を見届ける場】</b></p> <p>4 差別を無くしていくために、自分にできる実践策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間に苦手なことがあっても、「かわいそう」だと思わずに、「苦手だけどがんばっている」という見方をしたい。</li> <li>・苦手なことだけに目を向けるのではなく、仲間の得意なことやよい所にも目を向けて、美しい心カードで伝えたい。</li> </ul>  | <p><b>【評価規準】</b></p> <p>◇決め付けた見方が差別を生むことに気づき、差別を無くしていくための実践策をもつことができる。(記述内容・発言内容)</p>   |

---

## 解 説

---

### 1. 「障がいのある人の人権」を取り上げるにあたって

障がいには、「身体障がい」「知的障がい」「精神障がい」「発達障がい」「高次脳機能障がい」「難病」等があります。日本国憲法の理念にあるように、障がいのある人を含むすべての人々にとって住みよい社会づくりを進めるためには、個々の障がいについて正しく知り、適切に対応することが必要です。また、障がいのある人を特別視するのではなく、社会のなかで普通の生活が送れるような条件を整え、共に生きる社会にすることが必要です。すべての人々が利用しやすい「まち」「もの」を考え、協力していこうとすることが大切です。

### 2. 本実践の指導上のポイント

盲目のピアニスト辻井伸行さんに対する差別を提示し、盲目の人は、目が見える人よりピアノが上手に弾けないと決めつけてしまう意識のひどさを、学級全体で確認することができます。

その上で、「目が見えないと何もできない」と決めつけていた自分自身の心を見つめ直し、誰に対しても相手のことを正しく理解して接することの大切さを学ぶことができます。